

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 4 部門第 1 区分
【発行日】平成 26 年 3 月 20 日 (2014.3.20)

【公開番号】特開 2012-225122 (P2012-225122A)
【公開日】平成 24 年 11 月 15 日 (2012.11.15)
【年通号数】公開・登録公報 2012-048
【出願番号】特願 2011-96074 (P2011-96074)
【国際特許分類】

E 0 5 B 83/36 (2014.01)

【F I】

E 0 5 B 65/20

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 1 月 31 日 (2014.1.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ストライカを係脱可能なラッチ機構と、

該ラッチ機構を操作可能なアンロック位置と操作不可能なロック位置とに移動可能なリンク、および、該リンクを前記アンロック位置とロック位置に移動させるロックプレートとを有するロック機構と、

ドアに配設されたキーシリンダの操作力を前記ロック機構のロックプレートに伝達するキー操作力伝達機構と、

少なくとも前記ロック機構および前記キー操作力伝達機構を収納するハウジングと、
を備えたドアロック装置において、

前記キー操作力伝達機構を、前記ハウジングに対して前記キーシリンダの中立位置に対応する中立状態に位置決めする位置決め手段を設けたことを特徴とするドアロック装置。

【請求項 2】

前記位置決め手段は、前記ハウジングに設けられた位置決め部と、前記キー操作力伝達機構に設けられ、該位置決め部に係脱可能に弾性力をもって係合される係止部とを備えたことを特徴とする請求項 1 に記載のドアロック装置。

【請求項 3】

前記キー操作力伝達機構は、

前記キーシリンダの後端から突出して回転作動する回転ロッドが直接連結されて前記キーシリンダの操作に応じて回動するキーレバーと、

前記キーレバーに連結されて往復移動するキーリンクと、

該キーリンクに連結されて前記ハウジングに回動可能に配設されると共に、前記ロックプレートと遊びを持って係合するキーサブレバーとを備え、

前記係止部を前記キーリンクに設けたことを特徴とする請求項 2 に記載のドアロック装置。

【請求項 4】

前記ハウジングには、前記キーリンクを直線的に案内する案内溝と、該案内溝に沿って延びて前記係止部が摺動する当接壁とを設け、該当接壁に前記位置決め部を設けたことを特徴とする請求項 3 に記載のドアロック装置。

【請求項 5】

前記係止部を前記キーリンクに一体的に形成したことを特徴とする請求項 3 または 4 に記載のドアロック装置。

【請求項 6】

前記キー操作力伝達機構に、該キー操作力伝達機構の作動位置を検出するキー操作検出スイッチをさらに設けたことを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれかに記載のドアロック装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

前記位置決め手段は、前記ハウジングに設けられた位置決め部と、前記キー操作力伝達機構に設けられ、該位置決め部に係脱可能に弾性力をもって係合される係止部とを備えることが好ましい。

キー操作力伝達機構の係止部が、ハウジングに設けられた位置決め部に係脱可能に弾性力をもって係合されるので、キー操作力伝達機構は、位置決め手段を設けたままの状態で作動可能である。従って、キーシリンダの組み付け後に位置決め手段を取り外す必要がないため、更に組み付け性を向上することができる。